

MIS 発表演題のテーマ分析

小野寺 夏生 (ONODERA, Natsuo)¹⁾、城山 泰彦 (KIYAMA, Yasuhiko)²⁾

¹⁾ (社)情報科学技術協会、²⁾ 順天堂大学図書館

1. 研究の目的及び方法

過去 27 回の医学情報サービス研究大会(以下 MIS と略記)における一般演題 (口演及びポスター) 発表 611 件 (抄録集に記録が残っていない第 1 回のポスター発表 8 件を除く) について、抄録集を見てテーマ分類を行い、MIS ではどのような発表がなされてきたか概観した。また、発表者の職種 (勤務する職場の種別) による発表テーマの特徴を分析した。

用いたテーマ分類は、MIS の発表の傾向を特徴づけるように独自に設定した。これを表 1 に示す。大分類 A と大分類 E には共通する項目がいくつかあるが、前者は個別の機関 (ほとんどの場合発表者の所属する機関) における事例、後者は一般的論考や多機関にわたる調査等である。各演題に与える分類は 1 個のみとした。

また、発表者をその所属により、医学図書館、歯学図書館、看護図書館、薬学図書館、病院図書館、大学・学校図書館、公共図書館、教員・学生、企業、その他の 10 職種に分類し、職種と発表テーマの関係性を分析した。共同発表に対する演題カウントは、人数比例配分による調節計数法を用いた。

時期による特徴を分析する場合は、過去の 27 回を第 1-9 回 (I 期)、第 10-18 回 (II 期)、第 19-27 回 (III 期) の 3 つの時期に分けた。

2. 主な分析結果

大分類別の演題数比率は [A] 33%、[B] 4%、[C] 10%、[D] 31%、[E] 22% であった。所属する機関や組織の活動を発表する A、B、C と、医学関連情報の調査・分析・論考である D、E がほぼ半々になる。細分類中では、A03 (9%)、C02 (7%)、A06 (7%)、D02 (6%) の演題が多い。海外あるいは全世界を対象とする演題は 19% であった。

職種別分析を含む詳細については当日発表する。

表 1 設定したテーマ分類

A. 特定の図書館・図書室等の活動	D03 雑誌の利用分析、評価、コア誌の選定
A01 運営・管理一般	D04 雑誌以外の一次資料
A02 情報源	D05 二次資料と文献データベース
A03 サービスの計画と実施	D06 シソーラス、分類、用語、目録規則等
A04 情報ニーズ、情報利用行動、利用実態	D07 情報検索とその手法
A05 利用者教育、広報	E. 図書館と情報に関する一般的論考・調査研究
A06 システムやツールの開発、導入	E01 図書館情報学一般
B. 情報サービス機関、学協会、ベンダー等の活動	E02 図書館員、情報専門職
B01 上記に属するもの全て	E03 情報源
C. 共同研究・調査、機関間協力	E04 図書館・情報センターとそのサービス
C01 個人参加が主体の任意団体に関するもの	E05 情報ニーズ、情報利用行動、利用実態
C02 それ以外の機関に関するもの	E06 利用者教育、広報
D. 情報源分析	E07 システムやツールの開発と利用
D01 雑誌の出版動向、編集と出版の方針	E08 海外の状況分析、日本と海外の比較
D02 雑誌記事の情報分析	E09 医学史、医学出版史、医学図書館史

海外が対象、あるいは国際的視点に立つものは、上記分類コードに「F」を付ける。